

医療施設における転倒・転落防止対策の提案

高知工科大学大学院 工学研究科基盤工学専攻 フロンティア工学コース

○ 武内 仁美 渡邊 法美

高知大学医学部附属病院 看護部

山村 愛子

現在、多くの医療インシデントが発生している。平成16年度に日本医療機能評価機構が行ったヒヤリ・ハット事例収集事業では、473施設から42,869件のヒヤリ・ハット事例が報告されている。その中で、療養上の世話が39%を占め、その内、80%が転倒インシデントであったと報告されている。

本研究では、共同研究施設内で1年間に発生した転倒に関するインシデントレポート371件について、それぞれの発生要因を分析し、特に排泄行動関連時の転倒防止策をプロジェクトマネジメントの基本ツールを用いて提案することを試みた。

分析の結果、排泄に関連した行動の際に最も多くの転倒インシデントが発生し、その件数は118件に上ることが明らかとなった。まず、118件のインシデントの発生状況を、『施設・器具』ごとに発生件数を見た結果、ポータブルトイレ、トイレ・身障者トイレ、尿器の順となった。ポータブルトイレを使用する際に発生した転倒の要因は患者さんの心身状態によって変化するのではないかと考えられる。そこで、患者さんへの聞き取りとポータブルトイレの設置場所の調査を行った。調査の結果、1.ポータブルトイレはベッドに対して平行に設置されていることが望ましいが、実際には、垂直に設置されていることが多いこと、2.病室の床が滑りやすいと感じる患者さんがいること、が明らかとなった。そこで、a)ポータブルトイレをベッドに対して垂直に設置した場合、b)平行に設置した場合、c)平行に設置し、さらに滑り止めマットを設置した場合、の3パターンにおいて、ベッドからポータブルトイレに移動し、排泄、ベッドまで戻るという一連の排泄動作の安全性をモーションスタディーの考え方を用いて評価することを試みた。研究者が利き手・聞き足をシーネで固定することにより患者さんと同様な心身状態を再現し、一連の排泄動作の中で危険と感じた動作数を数えることにした。

その結果、ポータブルトイレをベッドに垂直に設置した場合と平行に設置した場合と比べると、危険と感じた動作や立位になる動作の数は減少させることが出来た。

トイレ・身障者トイレ関連の転倒については、到着前、到着時、到着後の3段階に分け、さらに各インシデントの発生時間・患者さんの心身状態・転倒理由・転倒場所を調査した。また、施設内の照明や床のすべりやすさなど施設の特徴についても調査した。それらの調査結果をもとに転倒要因と考えられる施設・器具の不具合など「ハード面」の因子を明らかにすることができた。そこから転倒防止策を提案した。

本研究は平成17年3月8日高知大学医学部倫理審査委員会で承認されたものである。

〔平成19年8月24・25日 第11回日本看護管理学会年次大会（高知）にて発表〕